

# 新型コロナウイルス感染症の 県内発生について

～11月末までの分析を中心として～

和歌山県福祉保健部技監 野尻 孝子

2020年12月11日

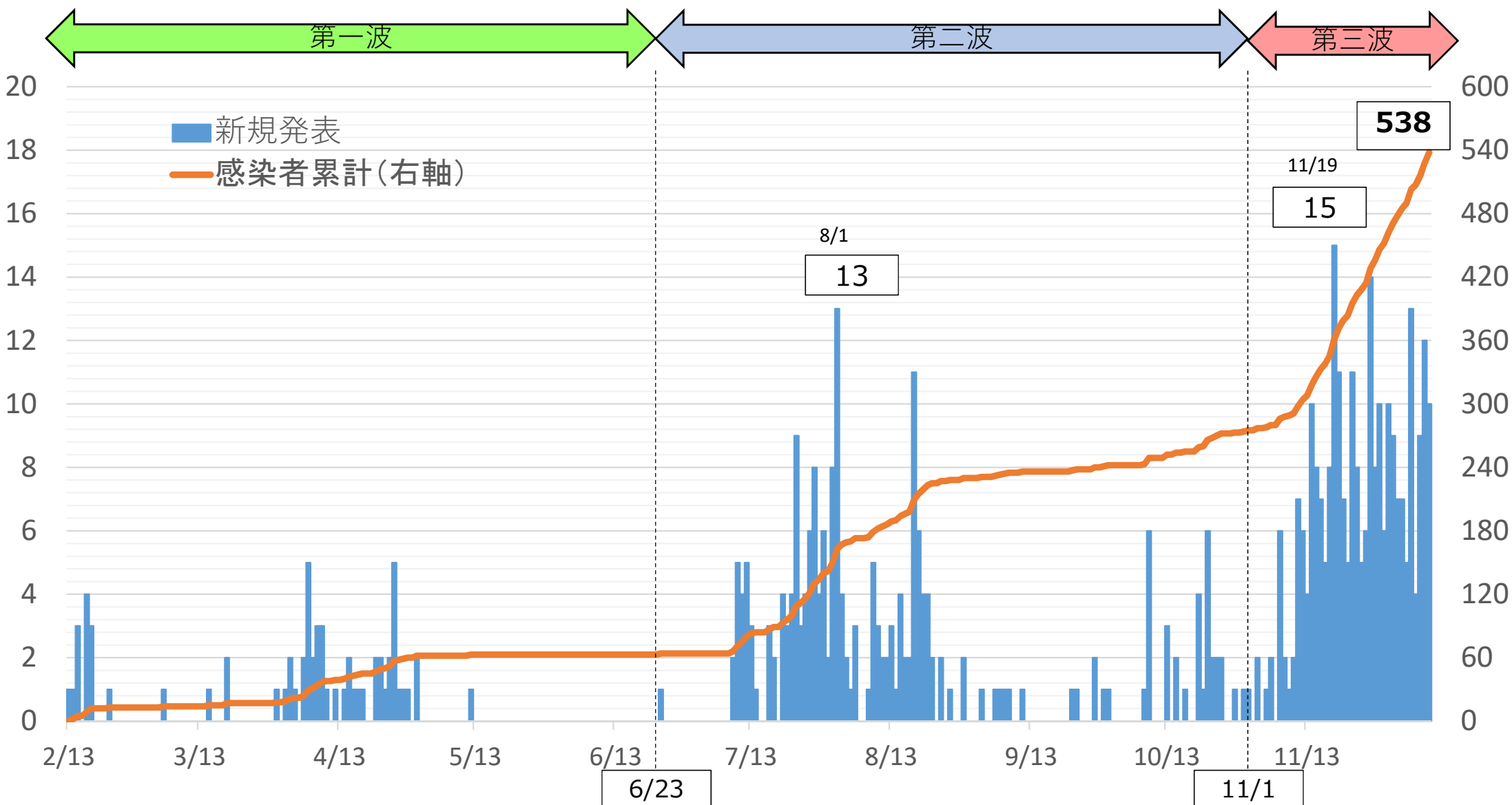


# 感染者数等の推移

# 和歌山県の感染者の推移

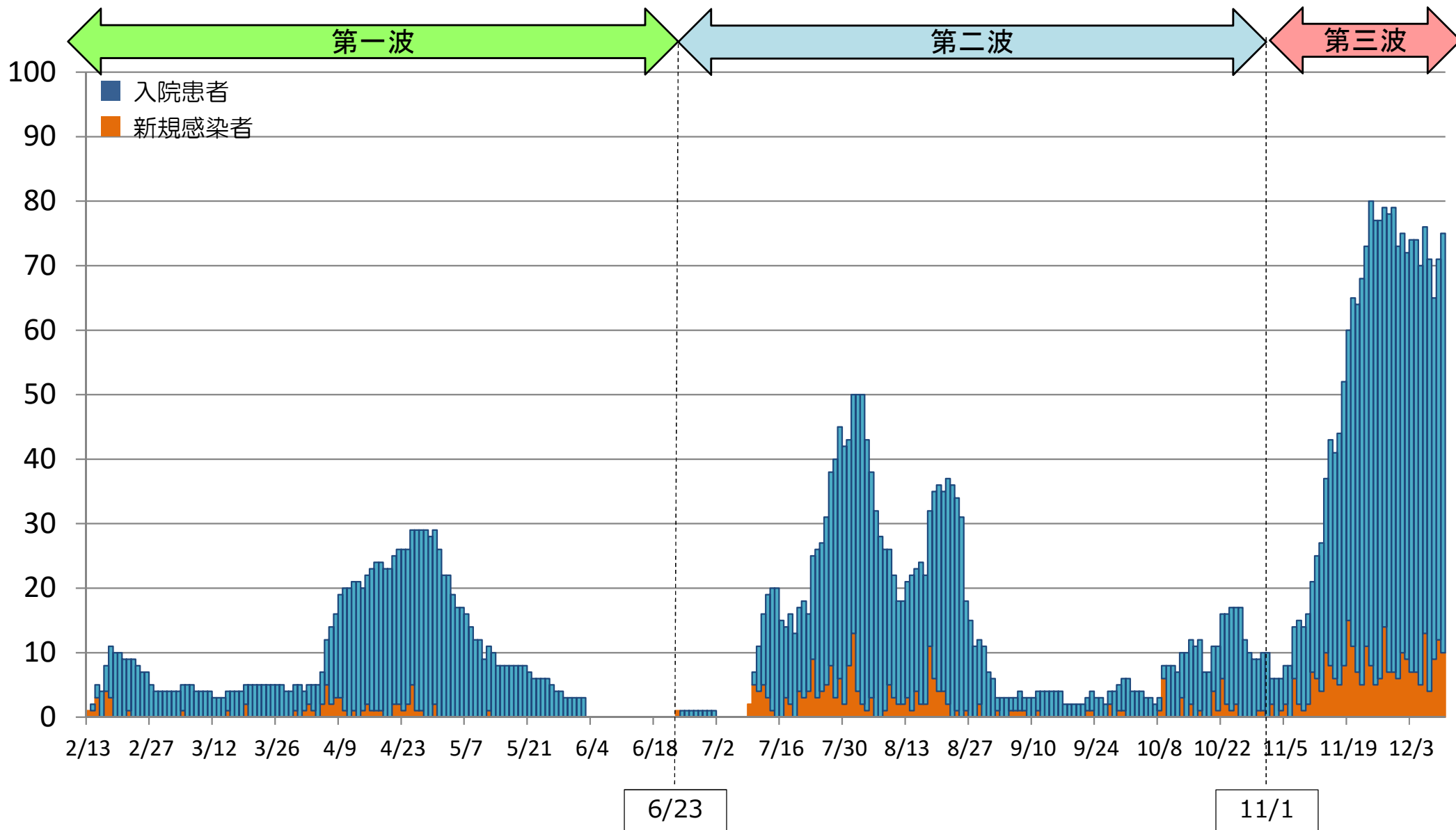
令和2年12月10日発表分まで  
(538件)

- 第一波より第二波、さらには第三波の方が新規感染者は増加している。特に、11月から始まった第三波ではクラスターが複数発生したことから一日の新規感染者は10人を超える日が多くなり、感染者は急増した。
- 一日の新規感染者の最大は11月19日の15人となっている。



# 和歌山県内の入院患者・新規感染者の動向 令和2年12月10日発表分まで

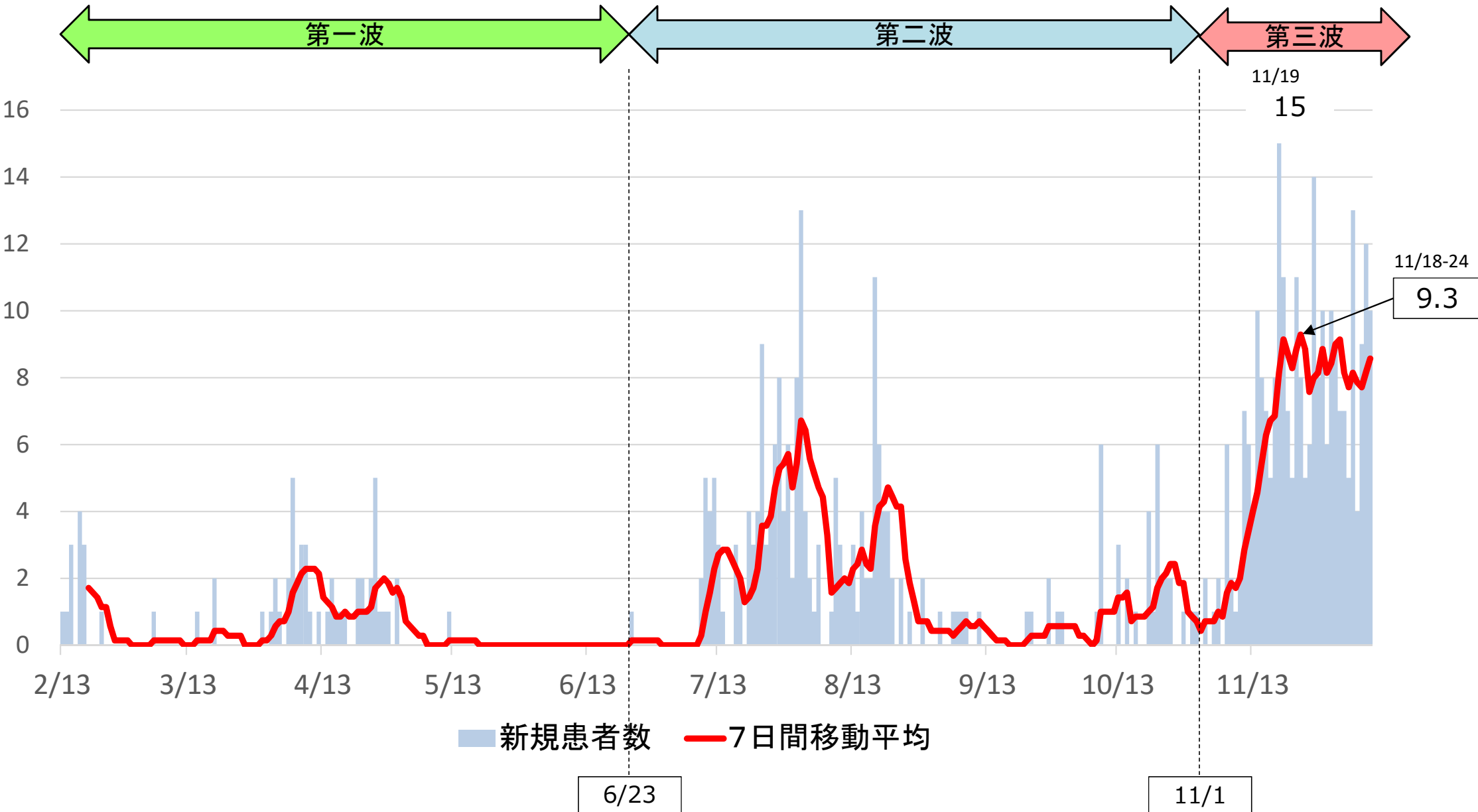
- 第一波より第二波、さらには第三波の方が新規感染者は増加し、入院患者も急増している。
- 一日の入院患者数の最大は11月24日の80人となっている。第三波では入院患者数が多い状況が続いている。



# 和歌山県の陽性者数の推移

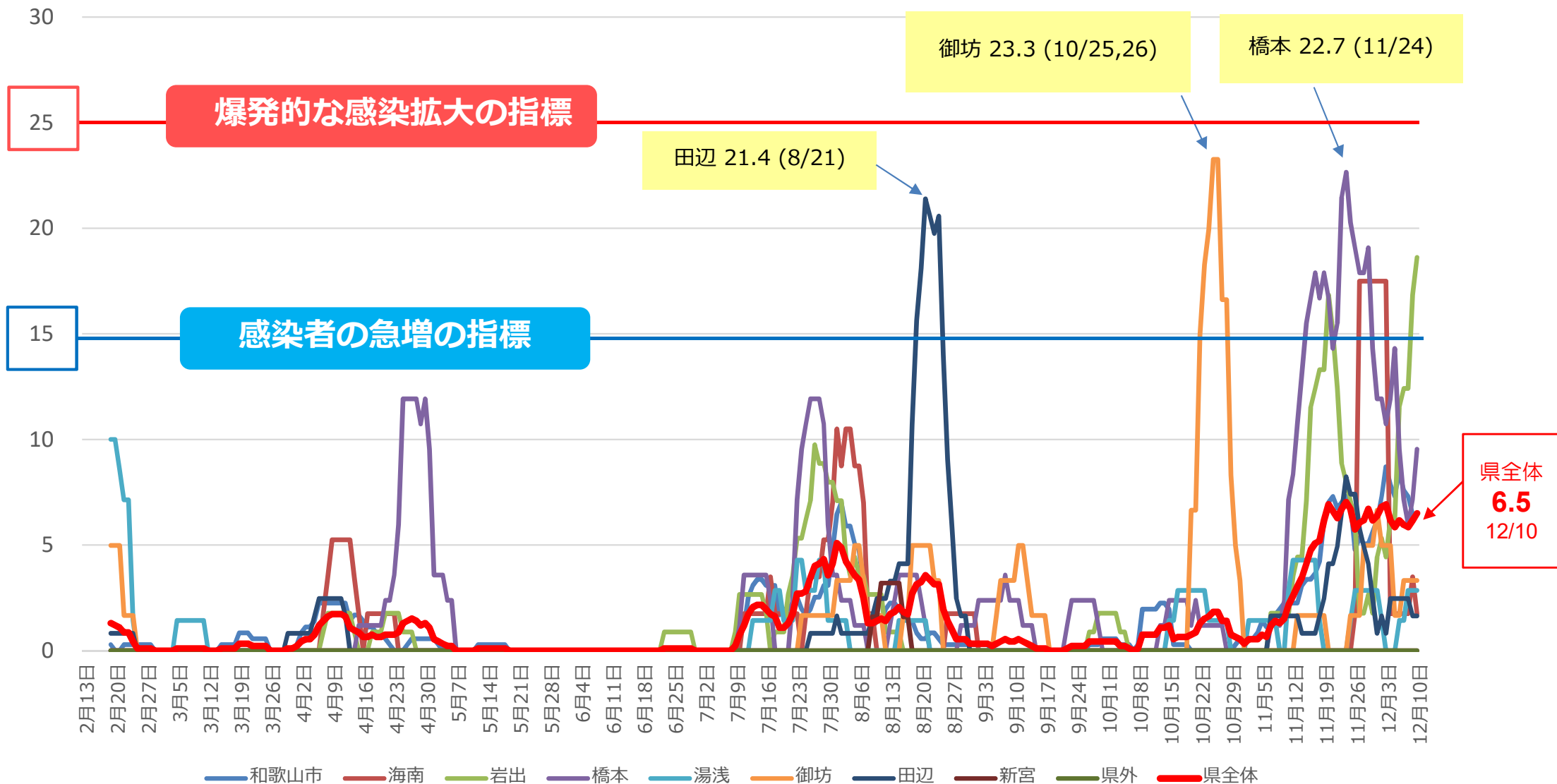
令和2年12月10日発表分まで  
(538件)

- 第一波より第二波、さらには第三波の方が、新規感染者数とともに7日間移動平均陽性者数も増加した。
- 第三波の7日間移動平均陽性者数の最大は11月24日の9.3となっていて高水準を維持している。



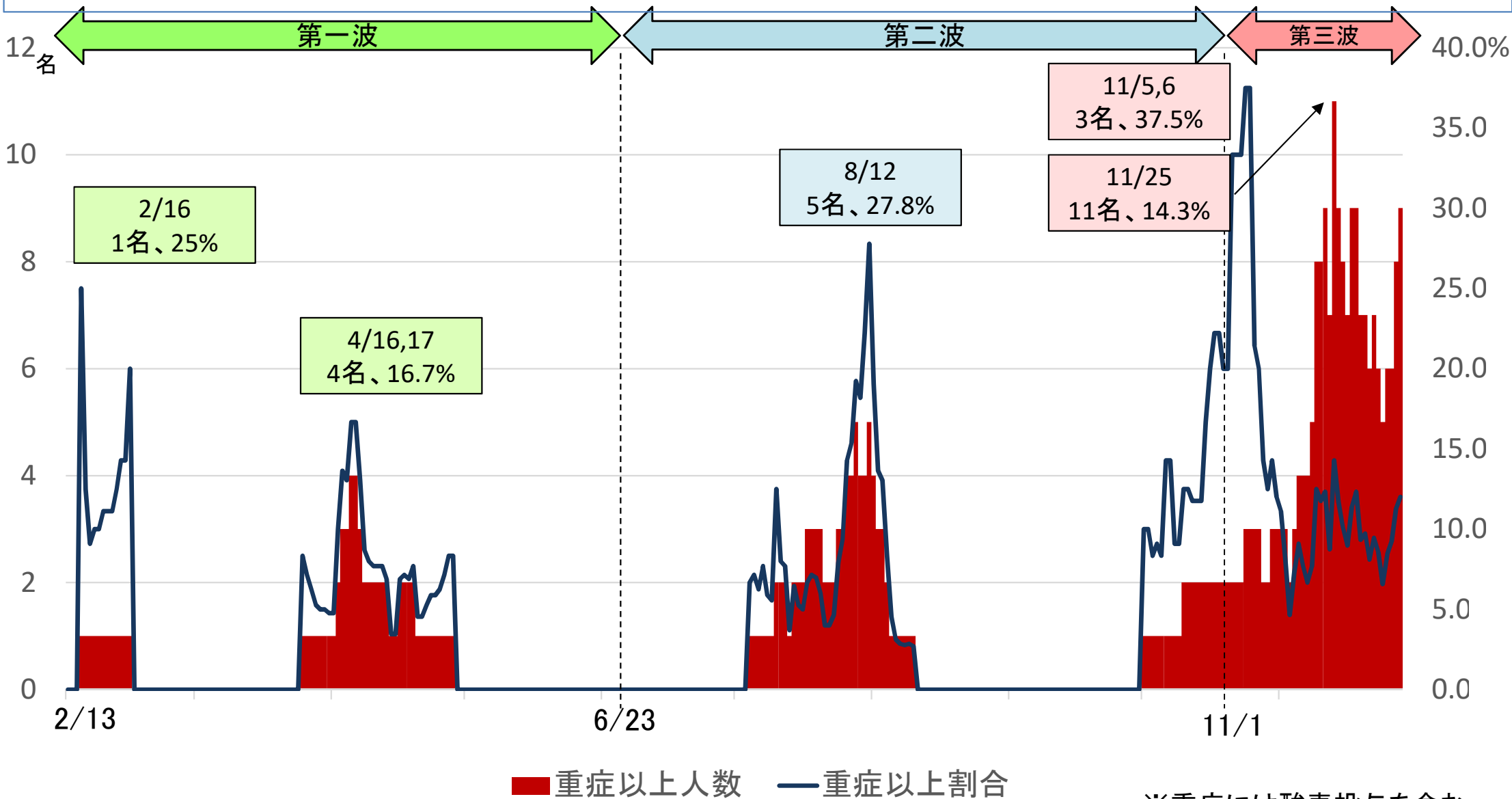
# 県内保健所別の感染者数の推移 (1週間・人口10万人あたり)

- 人口10万人当たりの1週間の新規感染者数は県全体としては、第三波に入りこれまで以上に上昇したが、国の分科会が示した感染者の急増の指標値には至っていない。
- クラスターが発生した保健所では、人口10万人当たりの1週間の新規感染者数は急増している。



# 重症以上の人数と入院患者に占める割合の推移

- 感染者が増加すると、酸素投与が必要な重症の入院患者は増加する。
- 第三波では、高齢者のクラスターが発生したことにより重症者数は増加したが、割合は入院患者の急増により低下した。

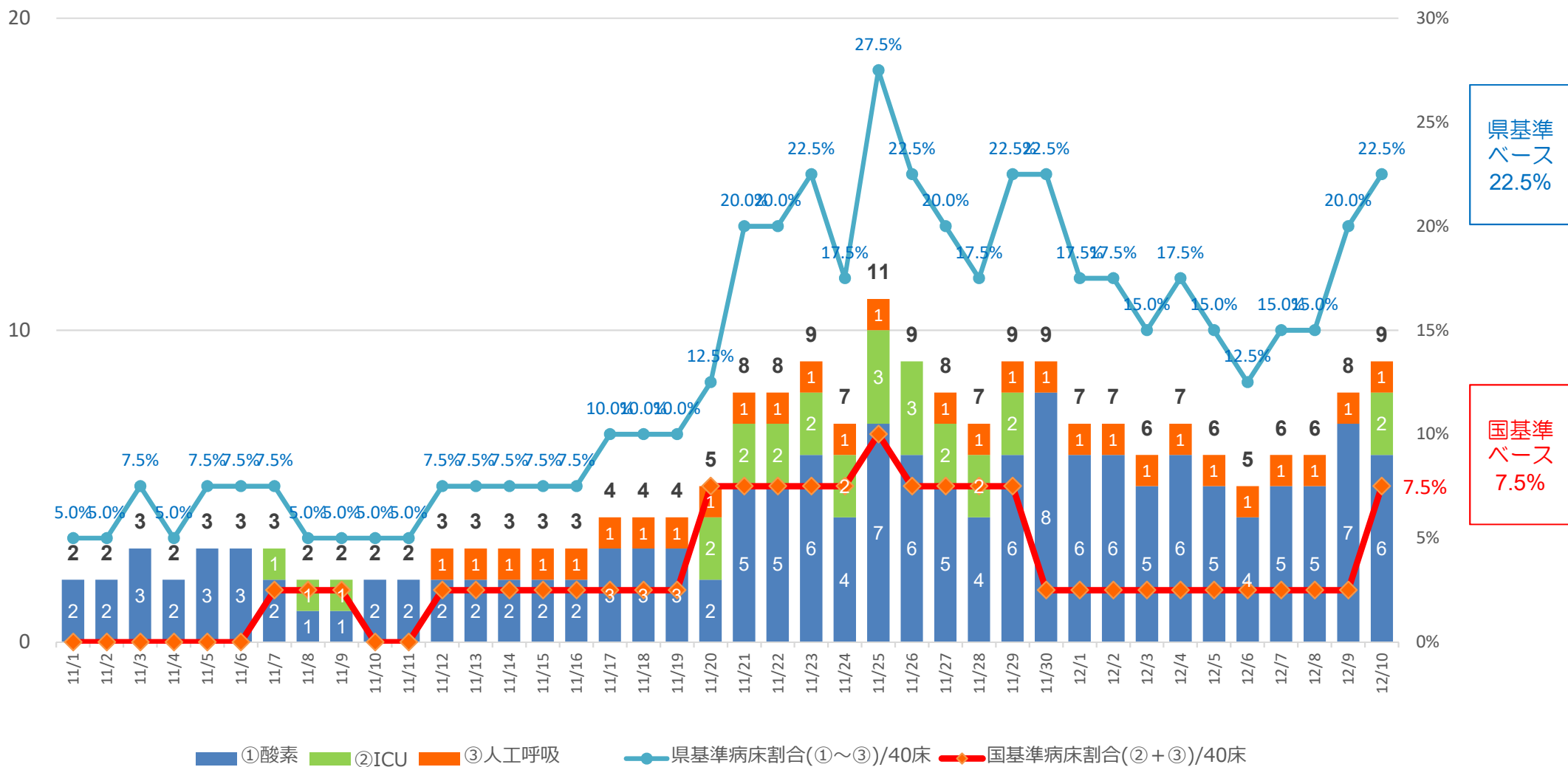


※重症には酸素投与を含む。

# 第三波における感染者の重症者数の推移

(11月1日～12月10日)

○ 第三波の11月に入ってから肺炎を併発し、酸素投与が必要な重症者は増加している。これまでの第二波とは異なりI C Uでの管理が必要な患者が複数みられることは注意する必要がある。



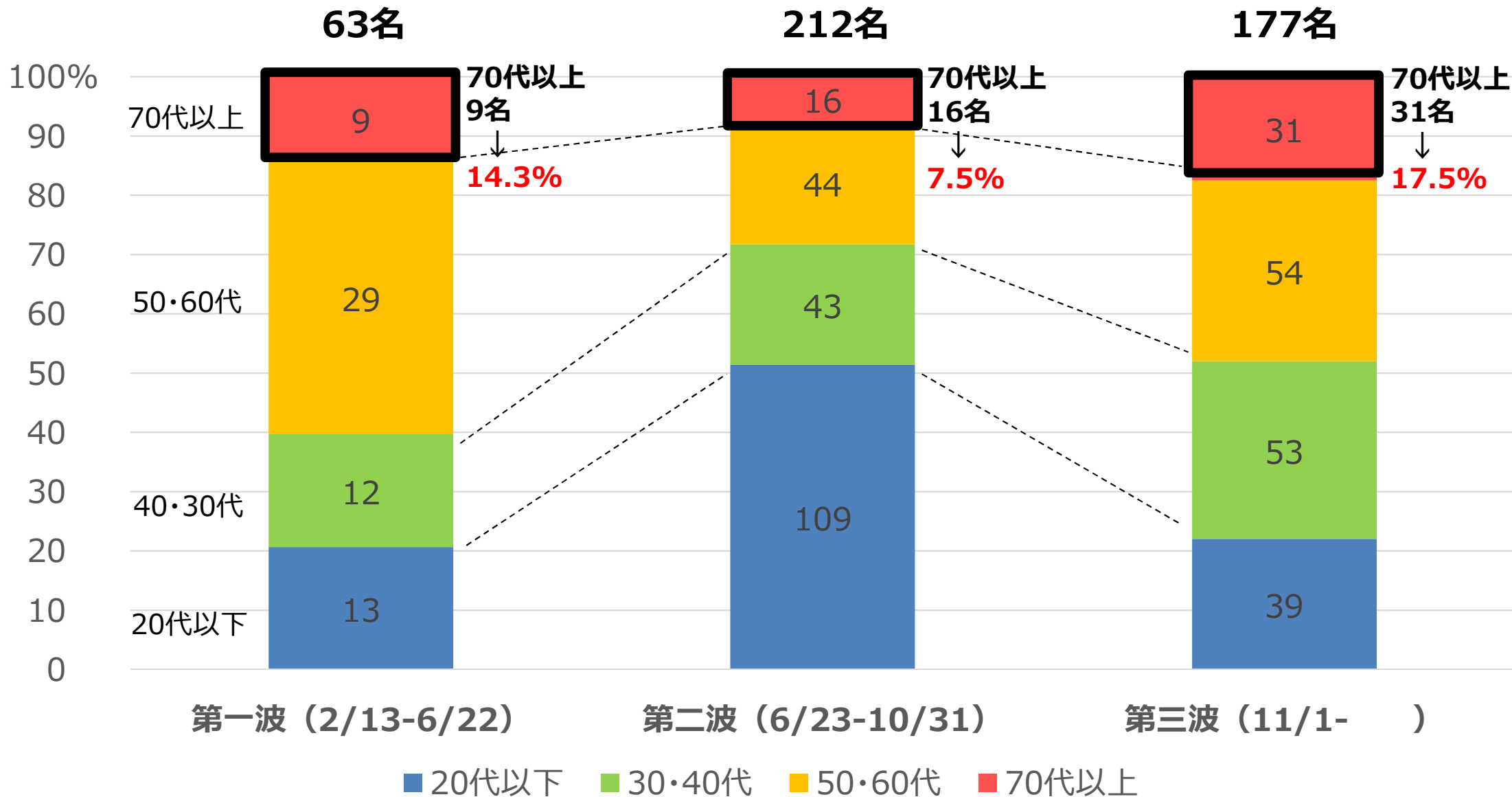


# 11月末までの分析結果

# 県内の年齢別感染者数

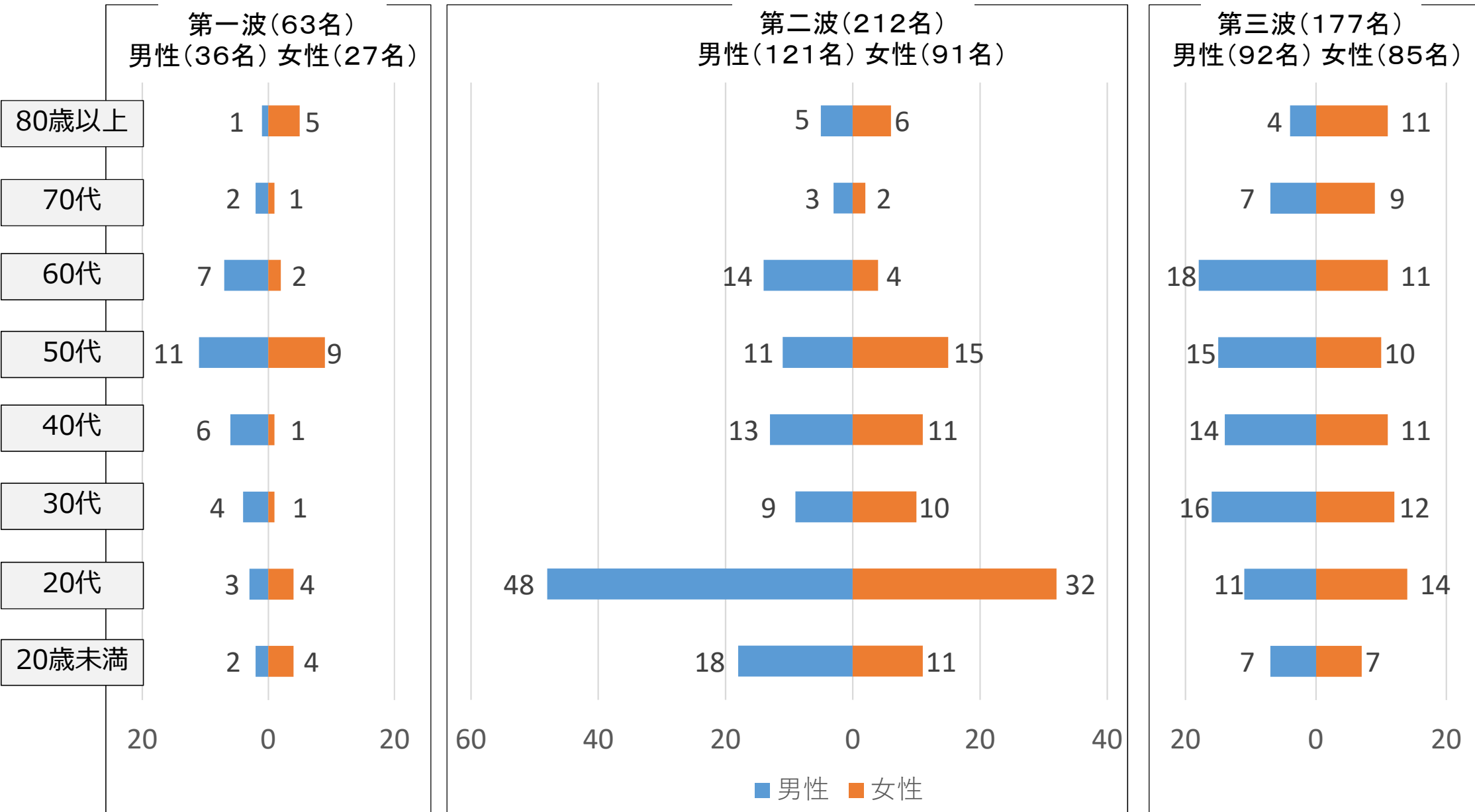
(令和2年11月30日発表分まで)  
452名

- 第一波では感染者の年代は50・60代が中心であったが、第二波では、20代以下の若者が中心となった。
- 11月から始まった第三波では、全年齢に感染が広がっている。特に70代以上の高齢者の感染者数が増加している。



# 年代別・性別感染者数 (11月末現在 n=452例)

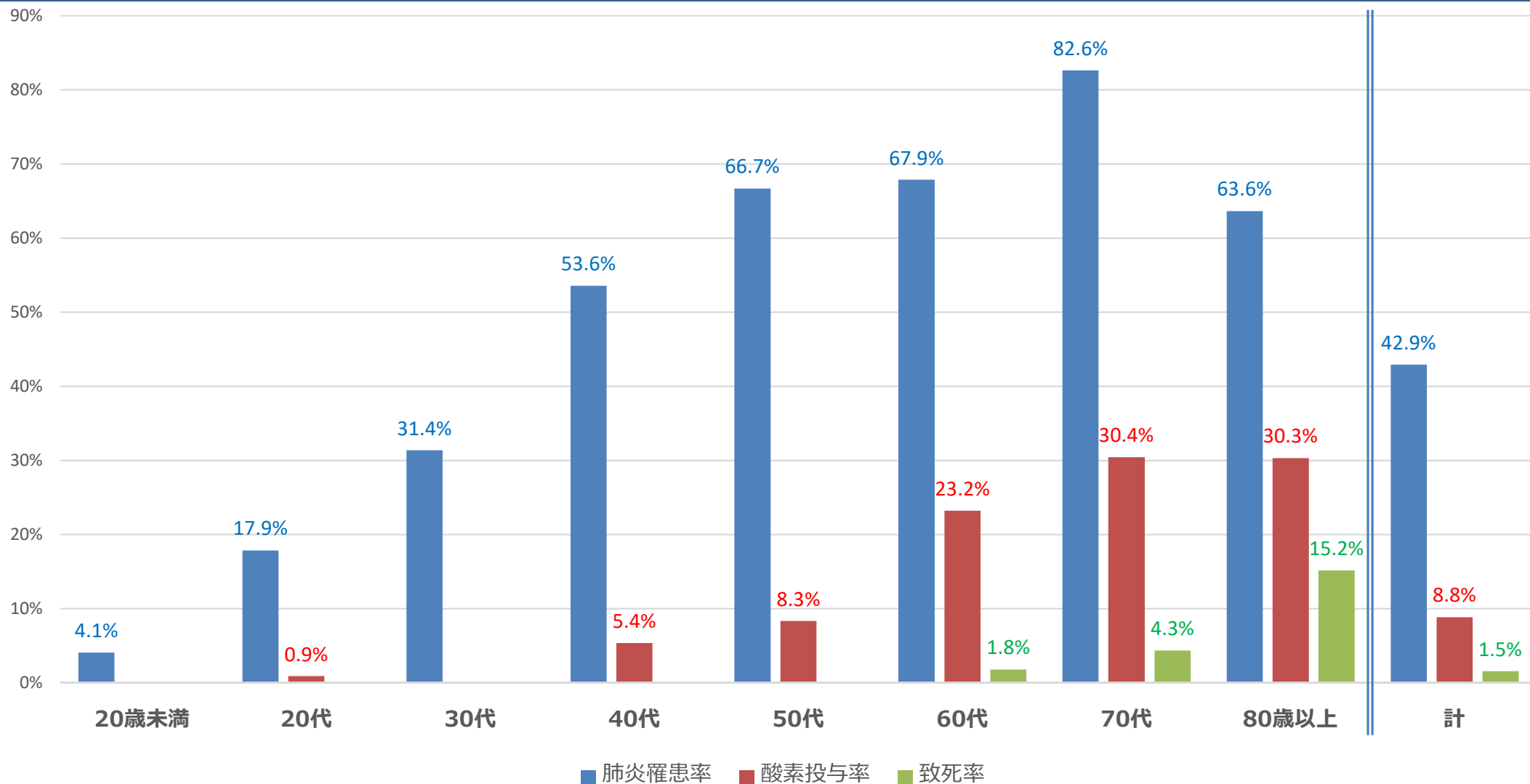
- 感染者の性別では、男性の方が女性より多い。年齢では20代が最も多い
- 第一波は50代が、第二波は20代が中心となり、第三波は全年齢で性差なく感染者が広がっている。



# 年代別肺炎併発率・致死率等重症割合

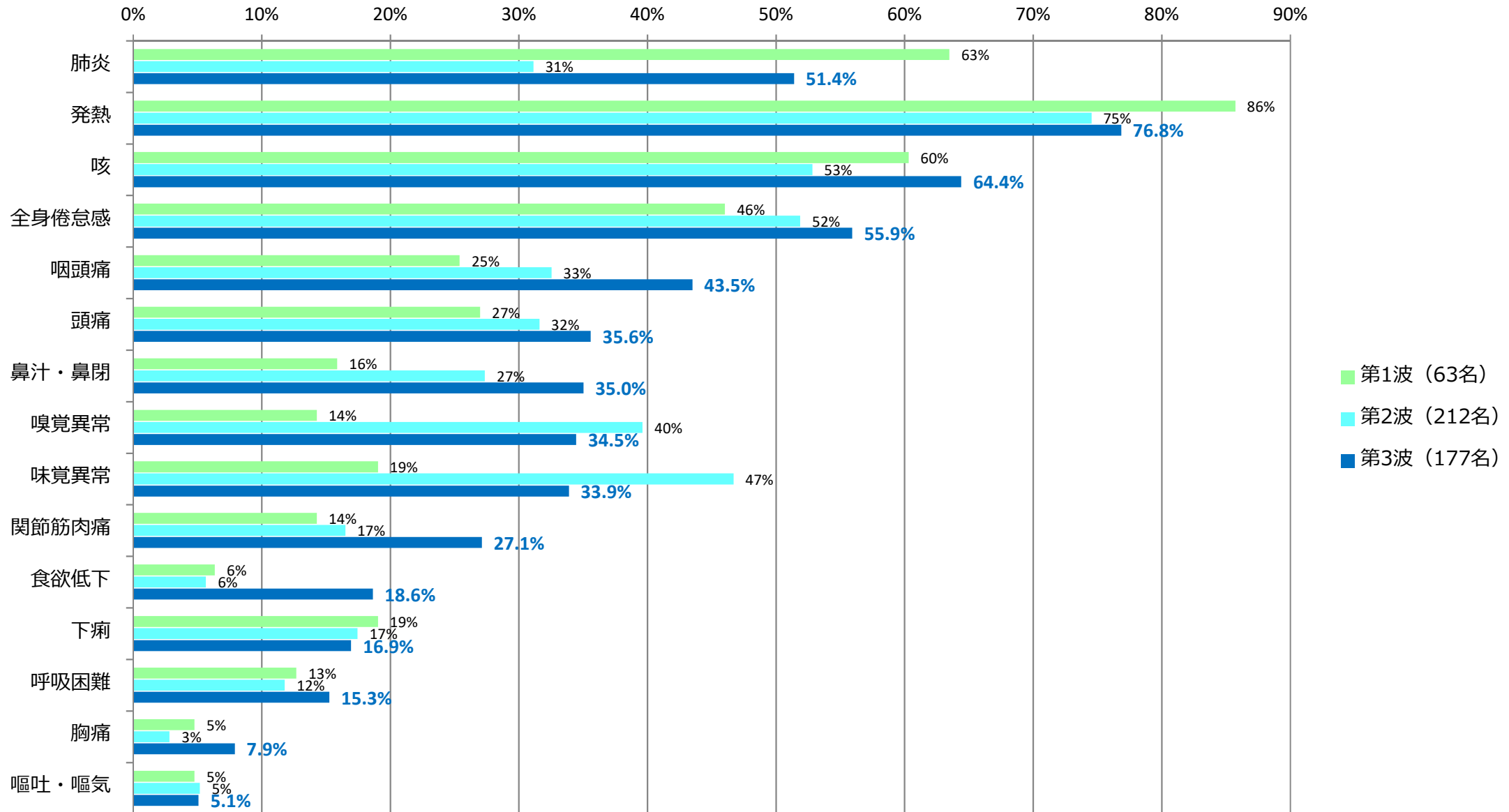
(11月末現在 n=452例)

- 肺炎を併発する率は年齢が高くなるに従って上昇しており、40代で半数以上の患者が肺炎を併発している。
- 60代で2割の患者が、70代以上で3割が酸素投与が必要な重症度となっている。
- 亡くなる患者は60代以上となっており、80歳以上の致死率は15.2%となっている。
- 従って、高齢者の集団感染を予防することが医療提供体制の維持に繋がると考えられる。



# 感染者の症状 (11月末現在 n = 452例)

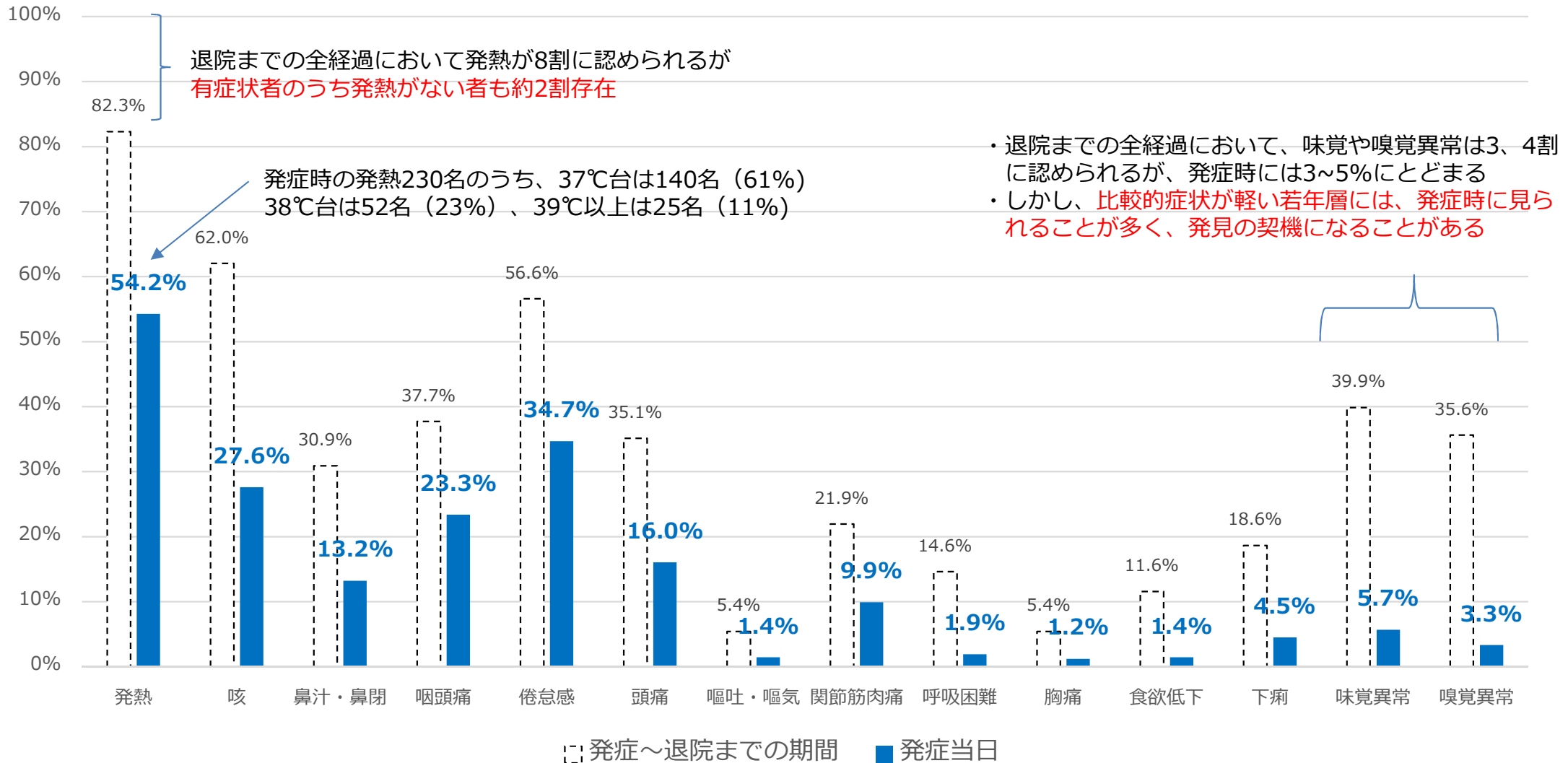
○ 第三波では、第二波より肺炎併発が多く、発熱、全身倦怠感が多く、咳、咽頭痛、鼻汁などかぜ症状が多い。一方、味覚・嗅覚異常は第二波より少ないが、やはり多彩な症状が出現している。



# 感染者の初発症状

(11月末現在 無症状者を除く n = 424例)

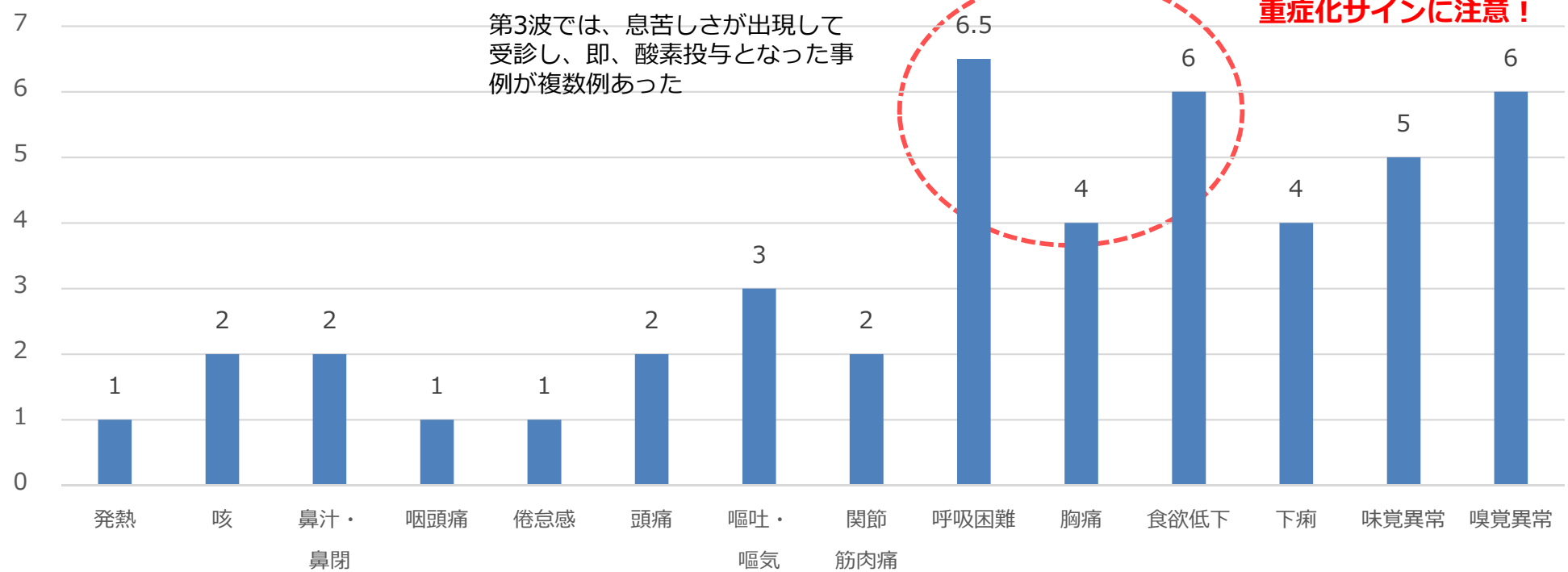
- 発症時の症状として多様な症状が認められるが、発熱が最も多く、咳、咽頭痛といった呼吸器症状や倦怠感、頭痛が続いている。味覚・嗅覚異常は発症時には少ないが、比較的軽症が多い若年層において、初発症状として現れることがある。
- ただし、有症状のうち、発熱がない者が約2割存在することは注意すべきである。



# 発症後 症状が出現するタイミング (11月末現在 無症状者を除く n = 424例)

- かぜ症状（発熱、咳、鼻汁・鼻閉、咽頭痛）や倦怠感、頭痛、関節痛が、発症初期に見られる。
- 約一週間後、肺炎が増悪し、一割程度の人に息苦しさや食欲低下が出現することは留意するべきである。  
味覚異常・嗅覚異常も発症後 5～6 日後に出現する。

発症後の日数（発症日を1とする）



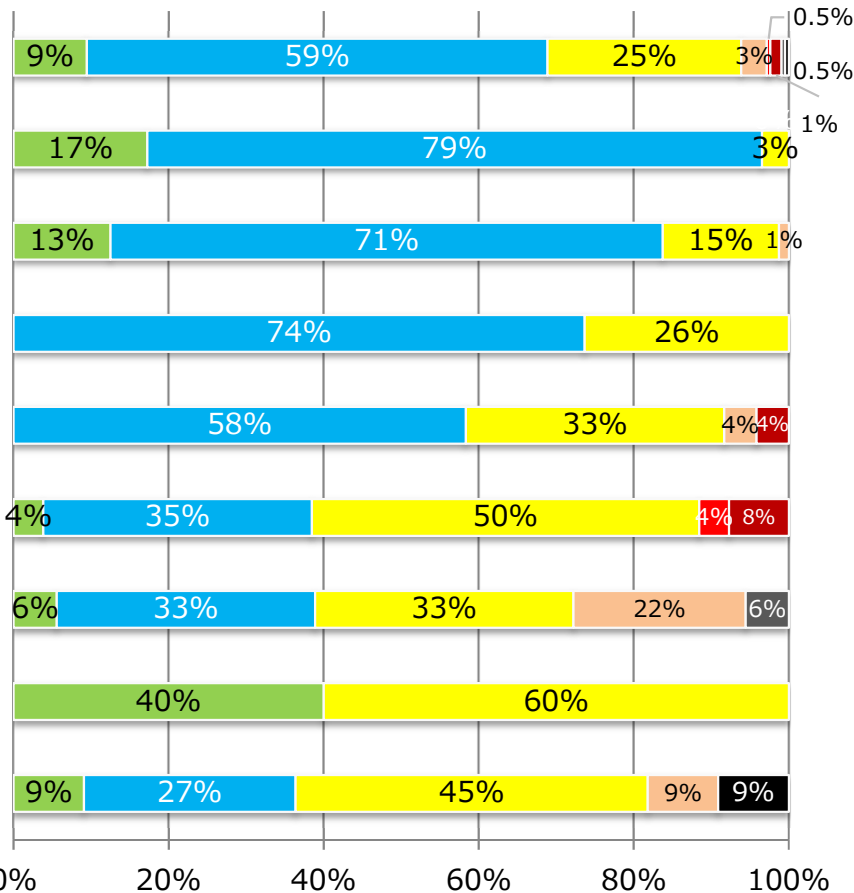
	発熱	咳	鼻汁・鼻閉	咽頭痛	倦怠感	頭痛	嘔吐・嘔気	関節筋肉痛	呼吸困難	胸痛	食欲低下	下痢	味覚異常	嗅覚異常
最大値	22	17	30	15	24	13	12	11	17	13	17	42	22	17
75%	2	5	5	3	3	4	9	4	9	8	9	8	7	8
<b>中央値</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>6.5</b>	<b>4</b>	<b>6</b>	<b>4</b>	<b>5</b>	<b>6</b>
25%	1	1	1	1	1	1	2	1	3	2	3	2	2	4
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
発症割合※	82.3%	62.0%	30.9%	37.7%	56.6%	35.1%	5.4%	21.9%	14.6%	5.4%	11.6%	18.6%	39.9%	35.6%
発症数	349	263	131	160	240	149	23	93	62	23	49	79	169	151

※有症状者424名における割合

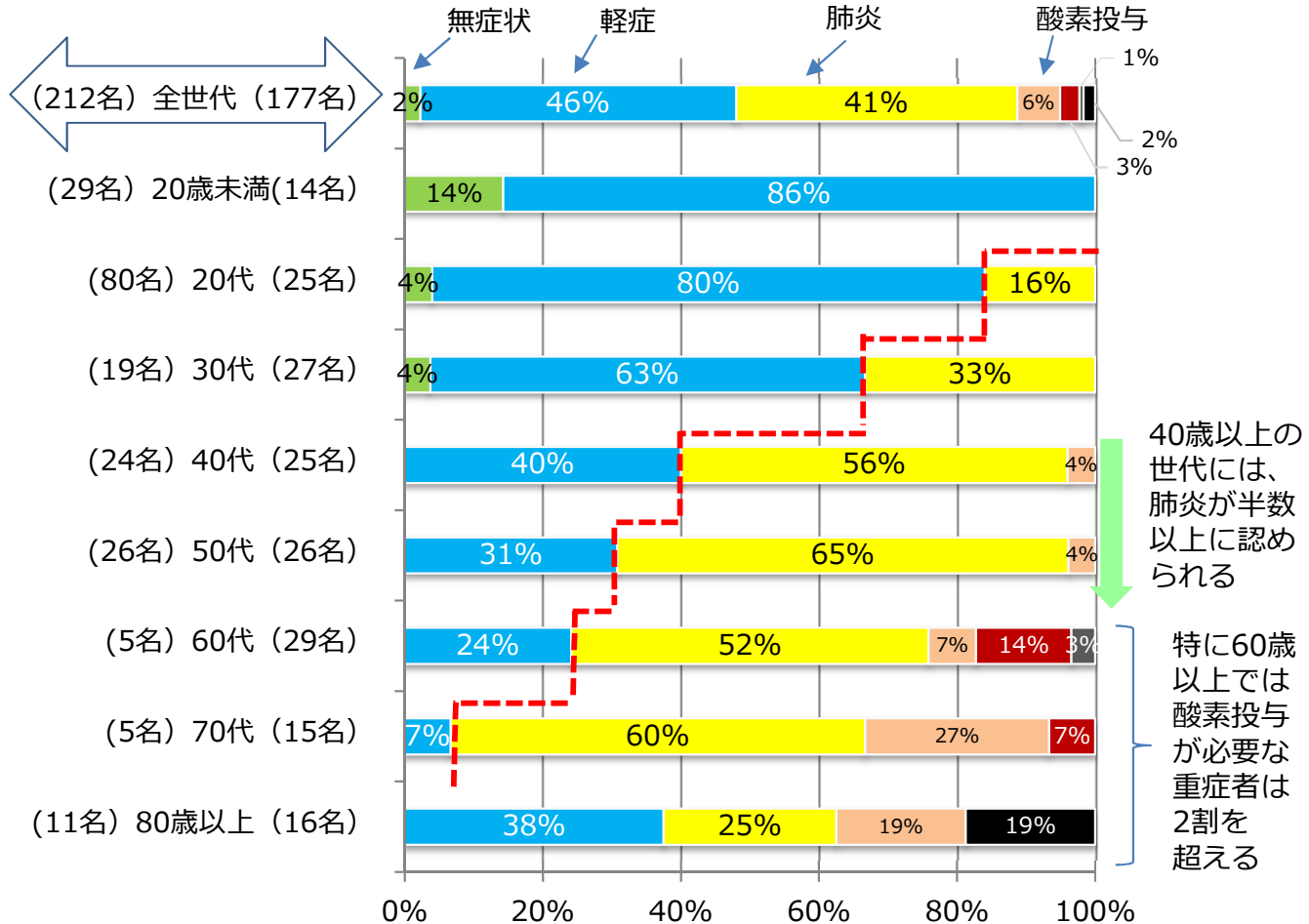
# 感染者の重症度 (11月末現在 n=452例)

- 第三波では、肺炎以上の重症度が半数以上となっており、高齢（70代まで）になるほど、割合は高くなっている。
- 80歳以上では、軽症の割合が4割近い半面、酸素投与やICU管理が必要となる重症者や死亡者がそれぞれ約2割となっていることは留意するべきである。

## 第二波



## 第三波 (11月分)



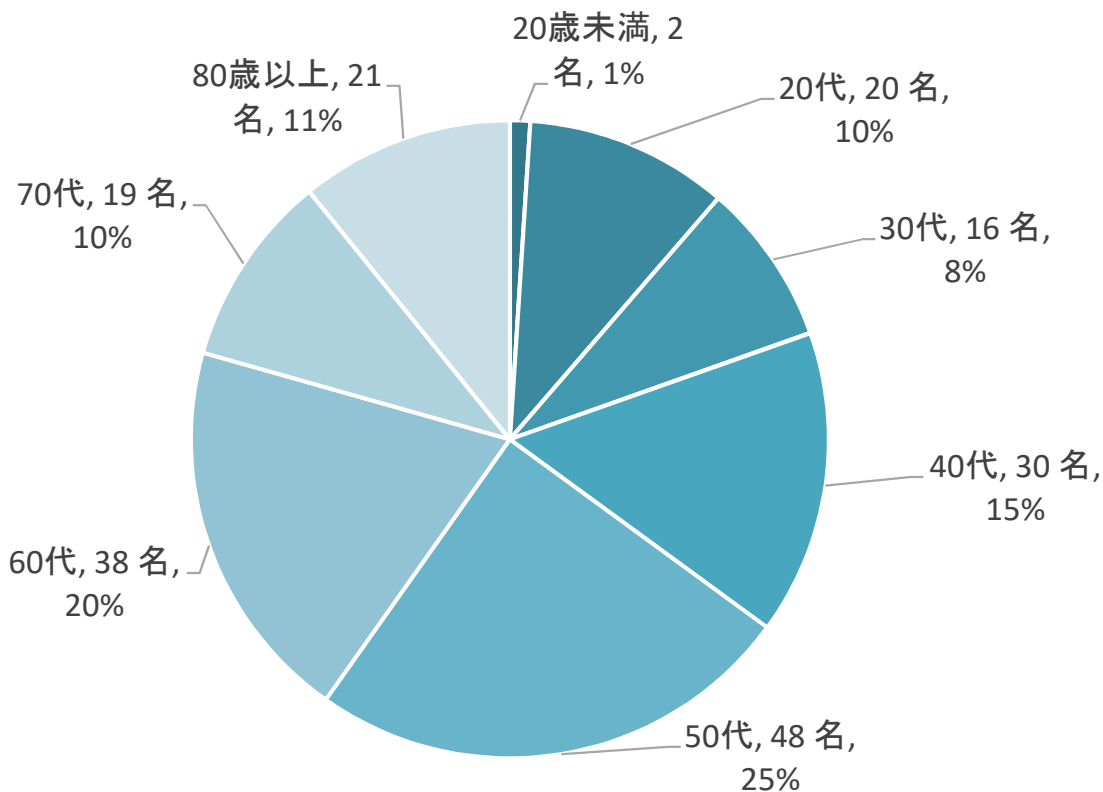
■ 無症状 ■ 軽症 ■ 肺炎 ■ 重症 (酸素) ■ 重症 (脳症) ■ 重症 (ICU) ■ 重篤 ■ 死亡



# 肺炎併発者の特徴 (11月末現在 n = 194例)

- 肺炎を併発する人の年齢は、40代以上の中高年が8割を占めていて、50代が最も多かった。
- 肺炎になっても酸素投与が必要なく経過する者が約8割となっているが、高熱が続くことや脳症を発症することがある。
- 酸素投与が必要となった者は死亡に至る例があることは留意するべきである。

## 年齢構成



## 重症度

194

酸素投与が不要  
155名・80%

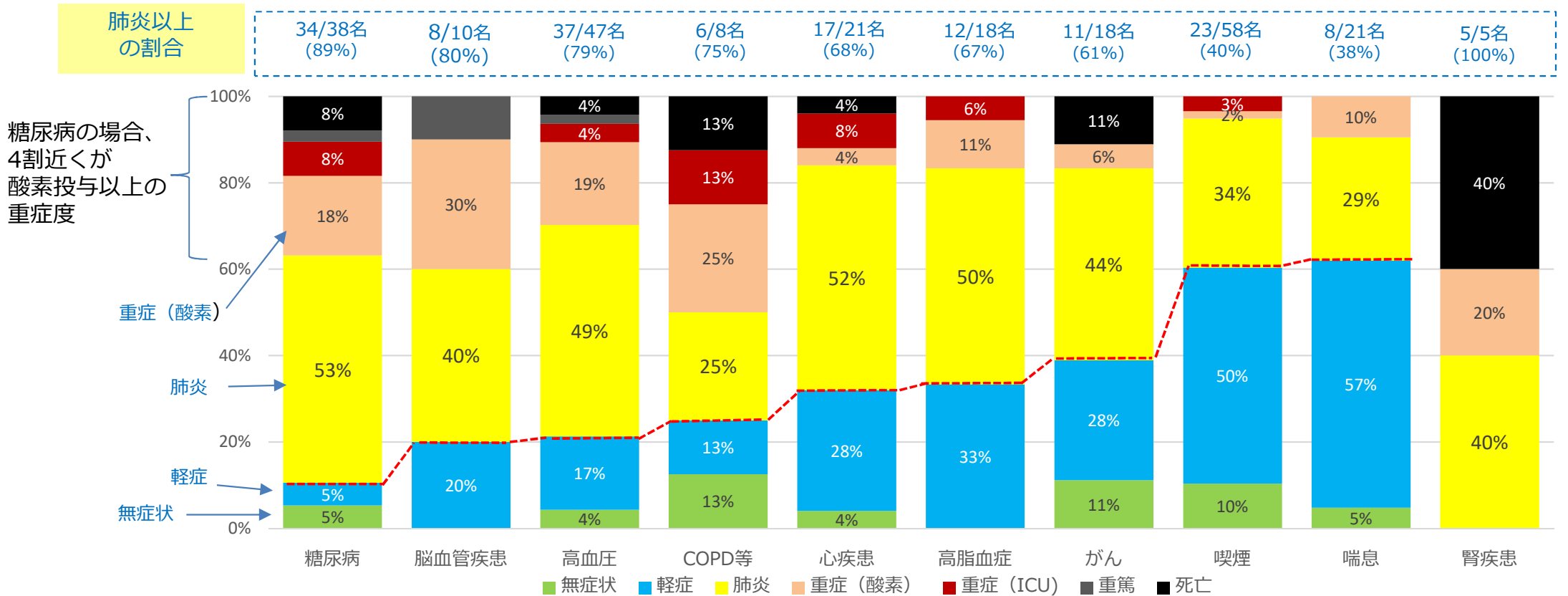
酸素投与が必要  
39名・20%

- ✓ 脳症を発症した人：1名
- ✓ 38℃以上の発熱が5日以上続いた人：14名 (9%) 最大11日
- ✓ 年齢：中央値 52歳
- ✓ 入院期間：平均 9日 (最大21日)  
※ 新退院基準適用以降

- ✓ 死亡6名、ICU12名、人工呼吸器3名  
※ 重複あり
- ✓ 年齢：中央値 67歳 (20代~90代)
- ✓ 酸素投与期間：平均 9.8日 (最大23日)
- ✓ 入院期間：平均 14日 (最大25日)

# 基礎疾患 (11月末現在 n = 452例)

- 肺炎を併発する人の基礎疾患としては、糖尿病、脳血管疾患、高血圧、慢性肺疾患、心疾患が多い。
- 高齢に加えて、基礎疾患を有する人は、重症化リスクに対して注意が必要である。



	糖尿病(2型)	脳血管疾患	高血圧	COPD等	心疾患	高脂血症	がん	喫煙	喘息	腎疾患
20歳未満					1			1	4	
20代					2			22	6	
30代					1			13	3	
40代	4	1	3		1			5	3	
50代	8		8	1	2	10	3	7	3	
60代	15	3	15	2	5	2	6	8	1	2
70代	6	2	9	1	6	2	4	2	1	1
80歳以上	5	4	12	4	7	4	5			2
合計	38	10	47	8	25	18	18	58	21	5
中央値(年齢)	63.5	73.5	68	77	71	58	69	34.5	35	74

# 濃厚接触者等の感染状況

(11月末現在 n = 452例)

- 当初の陽性判明者が何人の濃厚接触者等に感染させたかをみた。第一波より第二波さらには第三波の方がより多くの人に感染させていた。検査者数に対する陽性率も高くなっていった。
- 第三波ではクラスターの発生も多くなっていることやウイルスの伝播しやすさも影響していると推察

第一波

第二波

第三波

全体

当初判明者



(31名)

県外カウント1名を含む



(88名)

県外カウント2名を含む



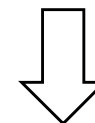
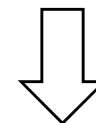
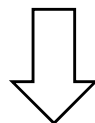
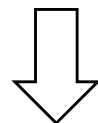
(64名)

県外カウント3名を含む



(183名)

県外カウント6名を含む



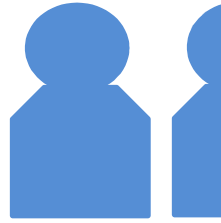
関連判明者



(33名)

1.06

検査数  
1,639  
陽性率  
2.0%



(126名)

1.43

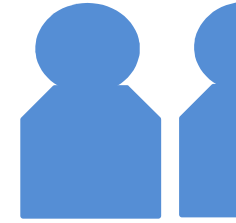
検査数  
2,585  
陽性率  
4.9%



(116名)

1.81

検査数  
1,875  
陽性率  
6.2%



(275名)

1.50

主なクラスター

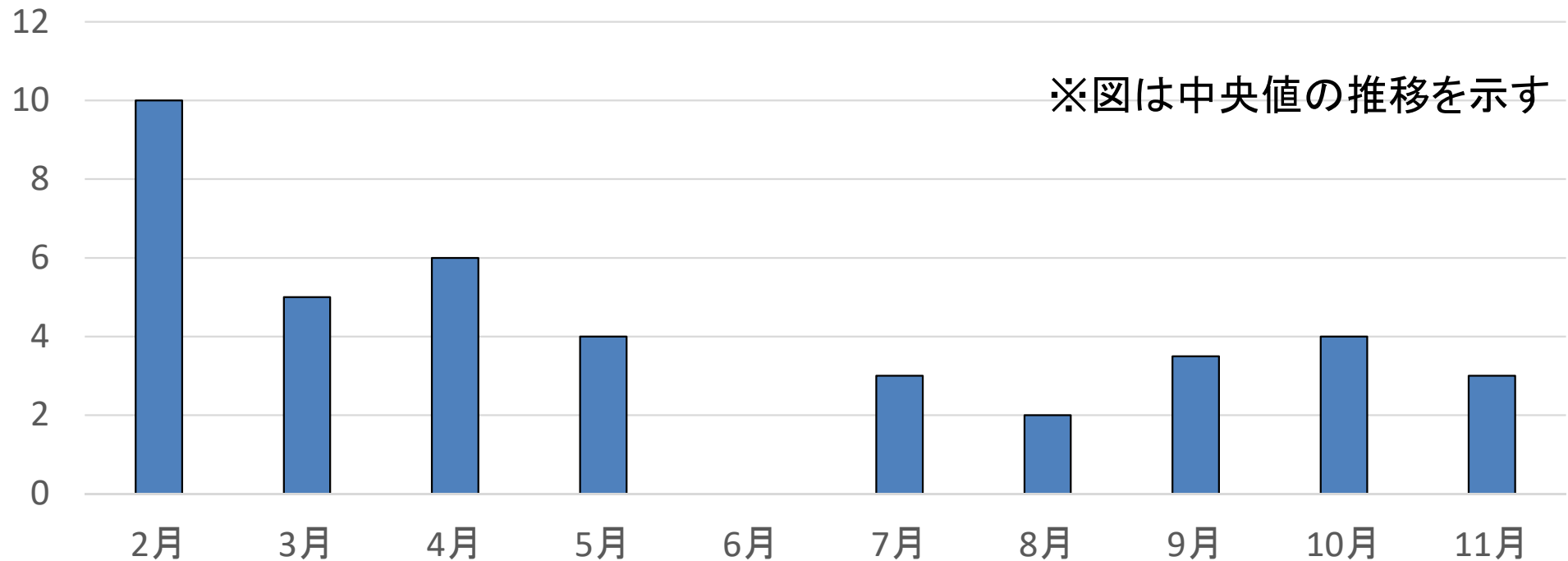
- ・ 病院
- ・ 学校

- ・ デイサービス
- ・ ダイニングバー

- ・ カラオケ
- ・ 労務宿舎

# 発症日から検体採取までの日数 ①当初発見例

- 新型コロナウイルス陽性者（接触者で陽性となった者を除く）が発症日からコロナを疑って検体採取されるまでの日数の推移を見た。第一波より第二波では、かなり短縮したが、感染者が少なかった9月、10月ではやや伸びた。第三波では短縮傾向ではあるが、最大15日になった事例もあった。
- 感染者数の推移により県民や医療機関の意識の変化がこの日数に影響すると考えられる。

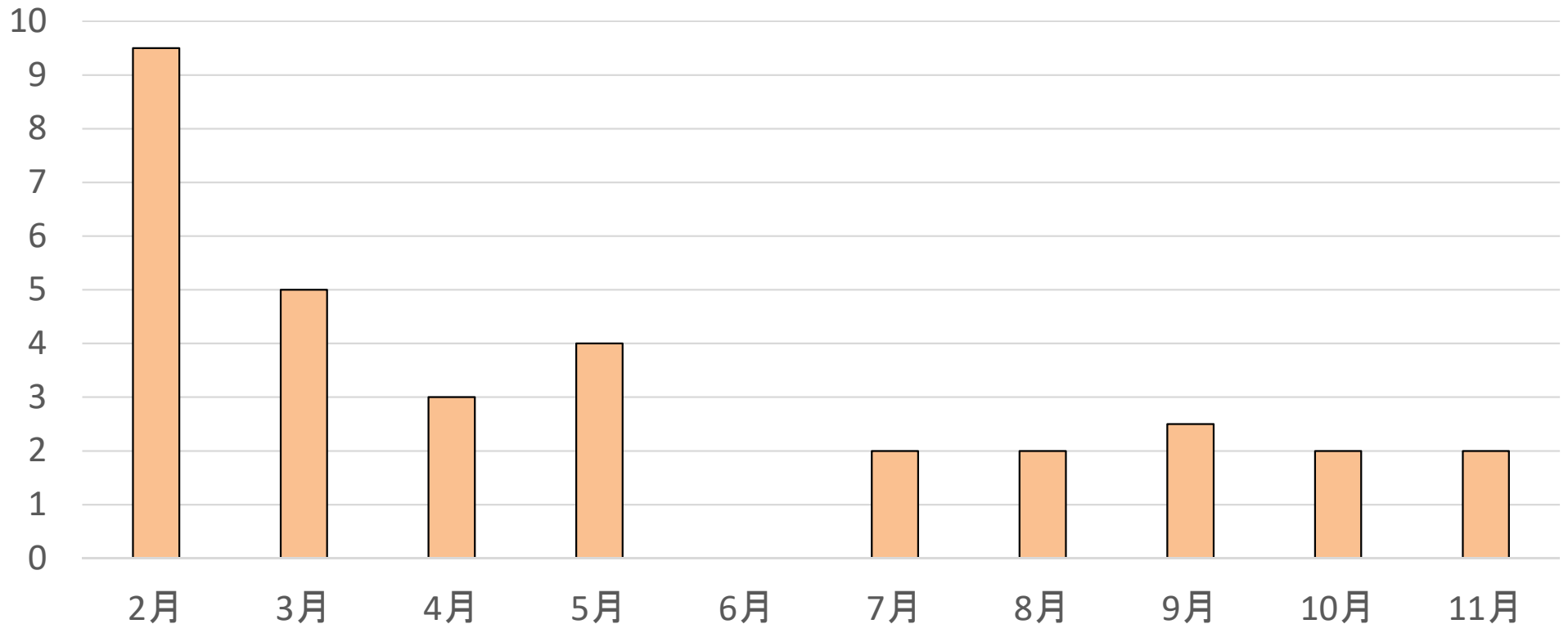


	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
最大値	18	9	17	4		13	11	9	8	15
平均値	9.0	5.4	5.8	4.0		3.6	2.9	4.3	3.5	3.3
中央値	10	5	6	4		3	2	3.5	4	3
最頻値	12		7			2	1	3	5	3
最小値	1	1	1	4		1	0	0	1	-2

※ 集計対象は当初判明陽性患者のみとし、発表月により分類している。

# 発症日から検体採取までの日数 ②全体

- 新型コロナウイルス陽性者（全体）が発症日からコロナを疑って検体採取されるまでの日数の推移を見た。
- 第一波より第二波、第三波では、かなり短縮し、陽性者の早期発見ができています。当初陽性者が判明してから濃厚接触者等の検体採取も迅速に対応できているものとする。

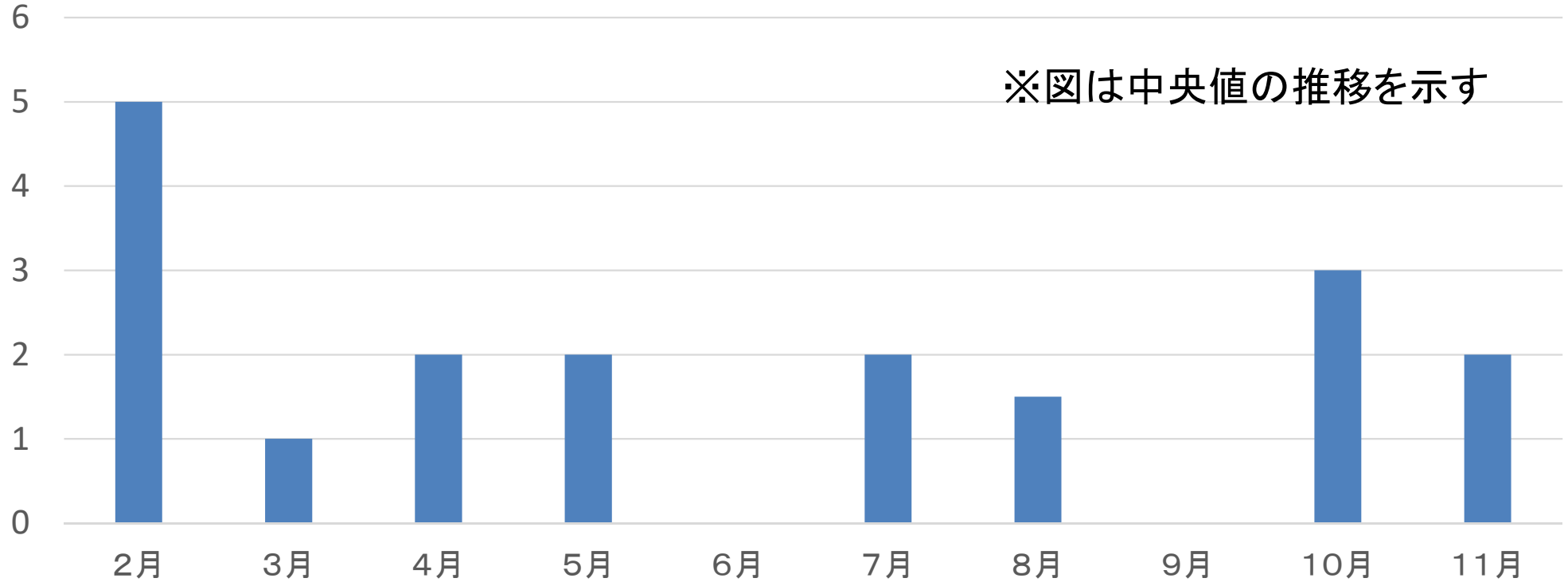


	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
最大値	19	9	17	4		14	14	9	8	15
平均値	8.5	5.4	3.4	4.0		2.0	2.5	2.1	3.0	2.5
中央値	9.5	5	3	4		2	2	2.5	2	2
最頻値	1		7			1	1	3	1	1
最小値	-1	1	-9	4		-4	-4	-5	-3	-3

※ 集計対象は陽性患者全体とし、発表月により分類している。

# 発症から受診までの日数

- 発症から医療機関受診までの日数の推移を見た。
- 2月当初より受診までの日数は減少傾向である。ただし、第三波の11月でも日数が11日となっている事例がある。



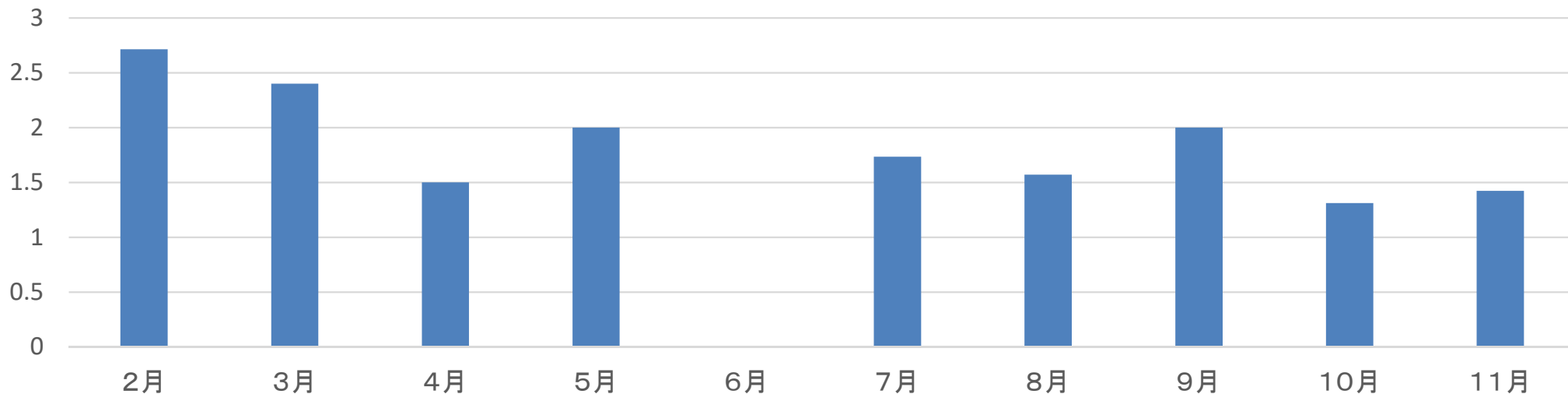
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
最大値	8	5	17	2		10	4	7	5	11
平均値	4.0	1.8	4.1	2.0		2.1	1.6	1.8	3.1	2.5
中央値	5	1	2	2		2	1.5	0	3	2
最頻値		1	2			1	2	0	2	1
最小値	0	1	0	2		0	0	0	1	0

※ 集計対象は当初判明陽性患者のみとし、無症状者、採取後発症者及び未受診者を含めていない。

# 発症から検体採取までの受診回数

(11月末現在 n = 452例)

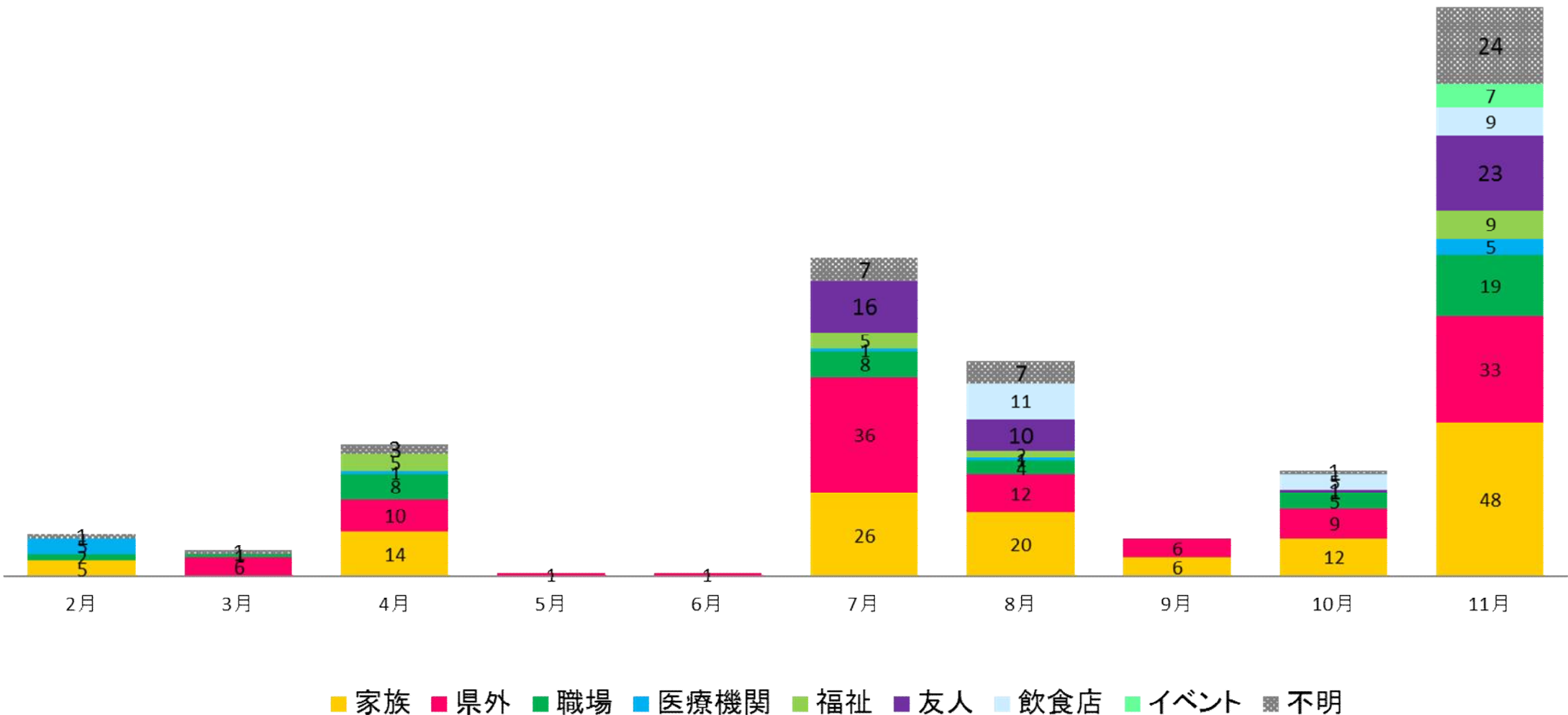
- 発症からコロナを疑って検体採取されるまでの医療機関受診回数の推移を見た。
- 第一波より第二波、第三波では、平均受診回数は減少傾向である。第三波の11月でも受診回数が3回、4回となっていた。



	合計	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
陽性者数	452	13	5	44	1	1	86	80	12	33	177
無症状者等を除く	365	11	5	34	1	0	62	59	9	30	154
受診回数	1	126	2	1	15		22	16	1	11	58
	2	76	1	1	9	1	21	8	3	5	27
	3	20	3	3	2		3	4	1		4
	4	4					3				1
	5										
	6	1	1								
受診者数	227	7	5	26	1	0	49	28	5	16	90
平均受診回数		2.7	2.4	1.5	2.0		1.7	1.6	2.0	1.3	1.4

# 感染者の感染経路 (11月末現在 n=452例)

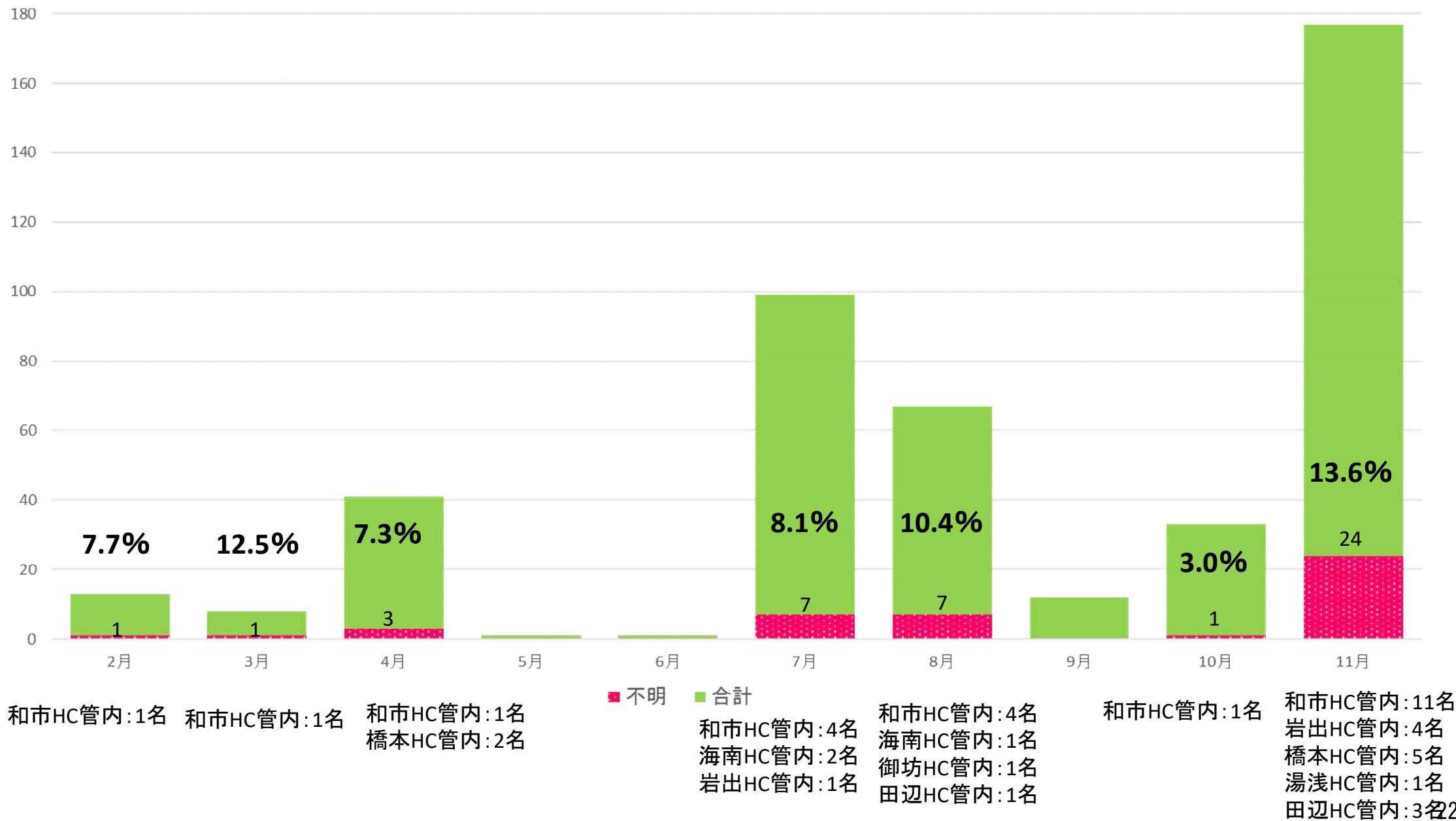
- 本県では、第一波の2月に院内感染で始まり、3月から県外の持ち込みが多くなり、第二波の7月は県外からの持ち込みが最多となった。
- 第三波の11月では、家族内感染や県外からの持ち込み、友人間感染が多い。ただ、感染経路不明数が増加している。





# 感染経路（原因不明の割合） （11月末現在 n = 452例）

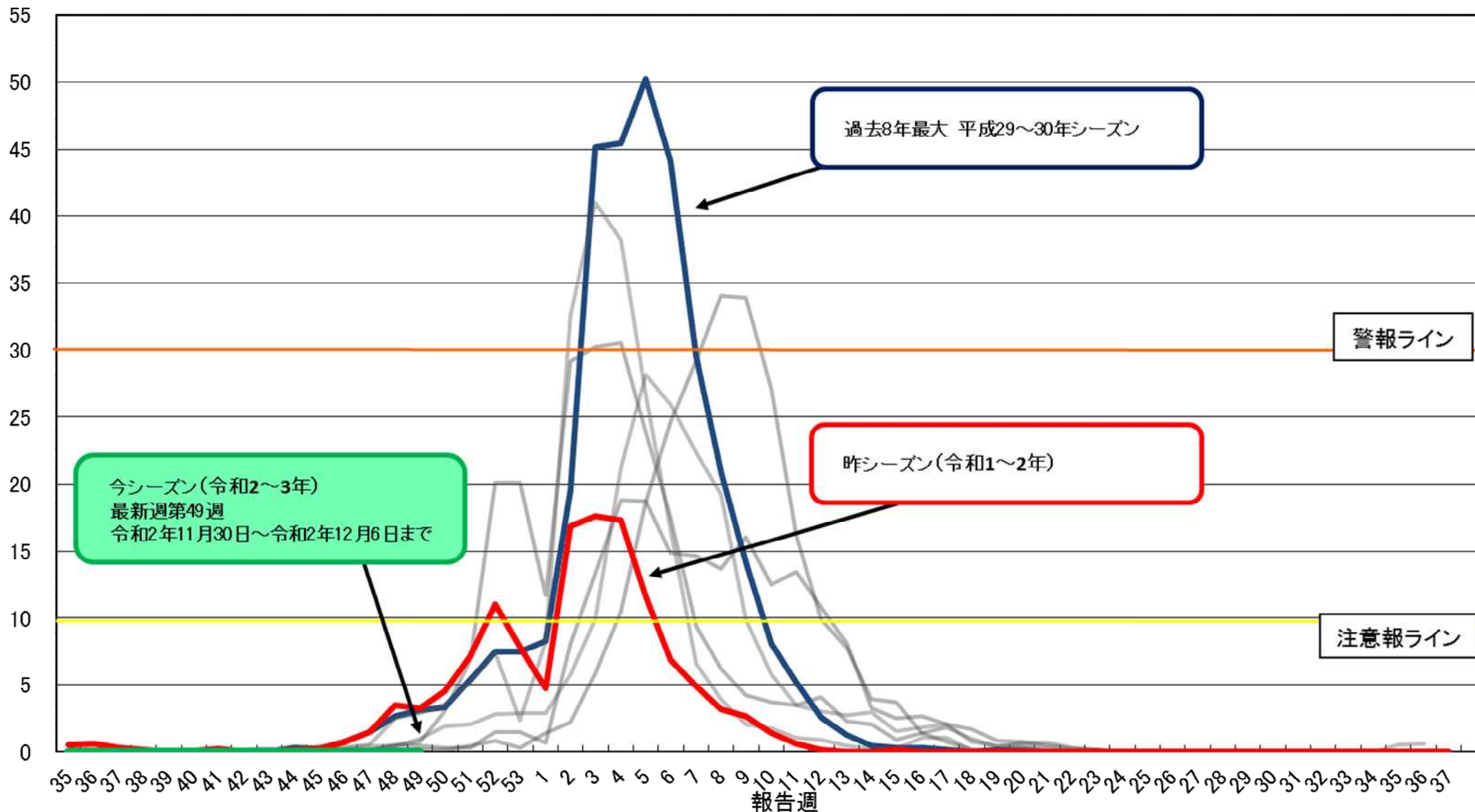
○ 第三波の11月になり、感染経路不明の割合が高くなっている。特に、紀北地域において感染経路不明者数が増加している。



# インフルエンザの流行状況

○ 今シーズンのインフルエンザは、38週で2例の報告があったのみで依然として流行は見られない。

定点当たり報告数 本県のインフルエンザ定点当たり報告数の推移(県内49定点医療機関集計分)



# まとめ

- 11月から始まった第三波では、これまで以上にクラスターが多数発生しており、新規感染者が急増している。本県においては、感染者の早期発見、早期入院・隔離、行動歴の調査で接触者に幅広くPCR検査を実施し、感染拡大防止に努めており、感染の爆発を食い止めている状況である。
- しかし、クラスターの発生が増え、また感染経路不明者も増えていることから予断を許さない状況が続いている。
- また、感染者の年齢は全年齢に広がっているが、特に中高年の感染者が増加し、重症者も増えている。今後、感染者がさらに急増すると医療体制への影響が出てくることが考えられる。
- クラスターになった事例からは多くの教訓を得た。手指消毒の重要性を再認識するとともに閉鎖空間での運動・活動、飲食、カラオケ、共同生活では特に感染が広がる可能性が大きく注意が必要である。
- 新型コロナウイルスは発症3日前から他の人に感染させる可能性があり、曝露を受けてから14日間は発症の可能性があるので、これまでのウイルスの対応では難しい状況がある。
- 感染者の症状は多様であり、初発症状で発熱者は約5割で、全経過で熱がない者が2割いることは注意すべきである。また、息苦しさや胸痛などは発症後6日経ってから症状がでてきて、肺炎を併発していることが多く気をつける必要がある。
- 感染者で肺炎を併発する人は半数近くあり、40代以上で多くなる。特に高齢者で肺炎を併発すると重篤となり注意が必要である。また、肺炎を併発する人では、糖尿病や呼吸器疾患などの基礎疾患を持っていることが多いことから、特に感染予防に注意すべきである。
- 本県では感染者の早期発見ができてはいるが、中には一週間以上発熱などの症状があっても受診していないまたは、3回以上医療機関受診している方もいること、また、現在、インフルエンザの流行は全く見られないことから、新型コロナウイルス感染症に焦点をあてた対応が求められている。
- 今後も、感染拡大防止のため、保健医療行政の努力と県民の皆様の理解と適切な感染予防対策の励行が必要である。また、医療関係者の皆様には引き続きご尽力をお願いしたい。